



# 香美市物部町神池地区 地域活動調査

---

依光晃一郎後援会

---

2013年12月

## 目次

---

1 調査の目的	1
2 調査の内容	1
3 地区の人口調査	2
4 地区の新聞掲載一覧	4
5 地区の掲載記事内容	11

# 1

## ｜ 調 査 の 目 的 ｜

高知県は、中山間対策に力を入れ、集落調査や、集落活動センターの立ち上げなど、集落に関する活動を活発化させている。この調査は、過去、高知新聞に掲載された神池地区の記事について、高知新聞社より情報提供いただき、神池地区の歴史について、情報の集約を行うことにより、神池地区の集落維持・再生に関わる行政・大学・民間への情報提供を行い、活用してもらうことを目的とする。

# 2

## ｜ 調 査 の 内 容 ｜

行政の統計情報と、高知新聞社の記事検索を使用し、報告書を作成する。また、高知新聞社の記事は、1971年1月1日から2013年12月4日（※最新の掲載記事が12/4）までの記事を調査対象とする。

### ①神池地区、人口調査

- ・ 行政の統計情報を基にして、現在までの神池地区の人口動向を作成する。

### ②記事内容調査

- ・ 高知新聞の記事検索を行い、調査内容に関連する記事の見出しと掲載日を集約する。

### ③調査内容の整理等

- ・ 高知新聞の記事内容を把握し、注目される活動をピックアップする。

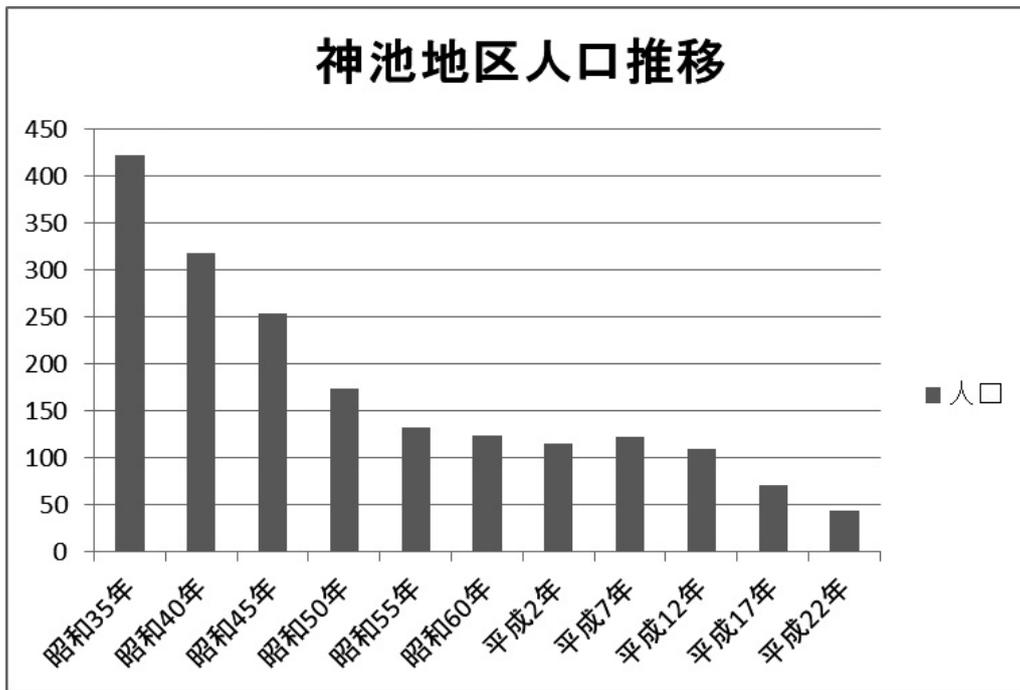


## 地区の人口調査

神池地区の人口は昭和35年の422人に対して、平成22年は44人と、約1/10まで減少している（表1・図1）。また、神池地区年齢別統計（表2・図2）を見ると、60歳以上の人口比率が高く、地区の高齢化が確認できる。平成25年のデータでは、65歳以上が31人であり、高齢化率は56%となっている。

（表1）神池地区人口推移（出典：総務省 国勢調査）

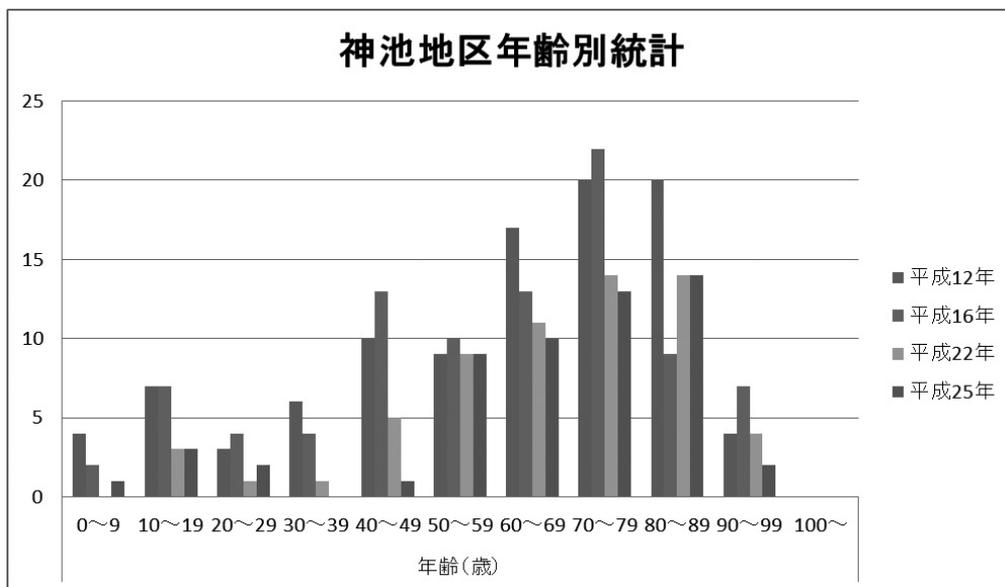
	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	422	318	254	174	133	124	115	122	110	71	44
世帯数	96	78	72	50	48	47	44	51	47	33	22



（図1）神池地区人口推移（出典：総務省 国勢調査）

(表 2) 神池地区年齢別統計 (出典：香美市)

年齢(歳)	平成12年	平成16年	平成22年	平成25年
0~9	4	2	0	1
10~19	7	7	3	3
20~29	3	4	1	2
30~39	6	4	1	0
40~49	10	13	5	1
50~59	9	10	9	9
60~69	17	13	11	10
70~79	20	22	14	13
80~89	20	9	14	14
90~99	4	7	4	2
100~	0	0	0	0
合計	100	91	62	55



(図 2) 神池地区年齢別統計 (出典：香美市)

## | 地 | 区 | の | 新 | 聞 | 掲 | 載 | 一 | 覧 |

番号	記事見出し	掲載日
1	竹キャンドルを共同制作 工科大生と神池地区住民 23日のイベント 向け 香美市	2013.12.4
2	『第67回県展特選画廊』(5) 洋画 「朱の軌跡Ⅰ」中居昭二郎/写真 「願」明石正	2013.10.11
3	大栃中生招きジャガイモ収穫 香美市神池地区	2013.7.15
4	『動静』 25日 尾崎知事	2013.6.26
5	「山間部に震災対策を」 対話と実行行脚 香美市民ら知事に訴え	2013.6.26
6	『議会』香美市(19日) 集落活動センター 神池なら人材豊富	2013.6.20
7	『土佐あちこち』 共同作業 (香長・山本仁)	2013.5.22
8	工科大生1年通し交流 茶づくりなど手伝う 香美市物部町	2013.5.19
9	『あぐる写斜射』	2013.4.22
10	山里 こいのぼり160匹 香美市物部町 神池地区	2013.4.19
11	願い込め素足で火渡り 香美市物部町 高板山不動堂 一般参拝者 も挑戦	2013.4.11
12	『議会』香美市(5~7日) 光ケーブル幹線 3000回線を想定	2013.3.8
13	木造仮設住宅キット完成 高知工生製作 香美市の自主防に寄贈	2012.11.22
14	『にゅーすけクイズ』 今週のテーマは高知の秋祭(あきまつ)り	2012.11.19
15	楠目小児童33人 山の暮らし学ぶ 香美市	2012.11.4
16	ユニークかかし人気 香美市で刃物まつり	2012.10.21
17	神池のかかし 県庁へ 香美市物部町 住民が制作 浴衣姿で節電 PR	2012.7.4
18	香美市物部町 大栃中生 地域の助っ人に 住民の神社清掃協力	2012.6.5
19	『社説』 みどりの日 山の「今」にもっと思いを	2012.5.4
20	『土佐あちこち』 神池のコイ (香長・飯野浩和)	2012.4.28
21	こいのぼり150匹 山里泳ぐ 住民総出で初節句、香美市物部 町	2012.4.21
22	『マガジンレビュー』 津波堆積物と南海地震 「科学」2月号 岡村 眞教授(高知大)ら分析	2012.2.9
23	『にゅーすけクイズ』 今週の主役は香美市	2012.1.18
24	『とさトピ』 28日に香美市で平家伝説のバスツアー	2012.1.15
25	『とさトピ』 来月2日に香美市で平家伝説の旅	2011.10.30

26	■水曜ミュージアム 『土佐・民の営み』(63) 高板山不動堂の大祭(香美市物部町) 護摩の火に浮かぶ白装束 心願成就へ素足で火渡り	2011.10.26
27	大栃中生と避難訓練 香美市物部町	2011.10.17
28	ユニークかかしずらり 香美市で恒例刃物まつり	2011.10.16
29	■教えて!にゅーすけ 『先週の1枚』	2011.10.9
30	水面に花ふわり 県絶滅危惧種・ミズオオバコ群生 香美市物部町	2011.10.6
31	地域同窓会、120人笑顔 「おかえり」かかし出迎え 香美市物部町神池	2011.4.22
32	『土佐あちこち』 中学生のお礼 (香長・野村圭)	2011.2.26
33	『土佐あちこち』 だまけた (香長・野村圭)	2010.11.4
34	香長総局新聞 ひそかに人口増加中 香美市の奥深い山で	2010.10.29
35	個性派かかし93点 香美市で刃物まつり 研ぎサービス好評	2010.10.17
36	『議会』 香美市(24日・臨時) 議長に西村氏 副議長は小松氏	2010.9.26
37	香美市議 現新各2が涙 民主落選 共4、公2 投票率67.33% 【解説】	2010.9.14
38	<号外> 香美市議 22人決まる 民主落選 共4、公2 投票率は67.33%	2010.9.13
39	香美市議選あす投票 下位グループは混戦	2010.9.11
40	香美市議選26人立つ 4人落ちの激戦スタート	2010.9.6
41	■土佐復燃 香美市新聞 『古里自慢』 女池(物部町神池) 大蛇伝説から憩いの場へ	2010.6.18
42	山間地にヘリポート 香美市物部町神池 「心強い支えできた」	2010.6.4
43	高知農高生 茶摘み継承 旧大栃高農場 地元小学生と作業 香美市	2010.5.28
44	春の叙勲 輝く受章者 高知県関係43人(敬称略)	2010.4.29
45	春季少年軟式野球 高知中ク4強ならず 今帰仁中ク(沖縄)に逆転負け	2010.3.29
46	ありがとう 大栃高校 最後の生徒17人巣立つ	2010.3.2
47	『2009年 支社局が選ぶ5大ニュース』(2) カシオ遼君人気に沸く 高知空港内に「空の駅」	2009.12.25
48	来春廃校 大栃高からバトン、高知農高が農場管理 「最後まで整備してきた…」 生徒の気持ち生きる	2009.12.22
49	最後の学園祭 完全燃焼だ あすから 大栃高生17人 懸命に準備	2009.11.27
50	災害時の高齢者支援学ぶ 香美市大栃中 生徒ら応急手当体験	2009.11.20
51	大栃高生 感謝込め、最後の下刈り 香美市の農場 廃校後の活用願い	2009.9.14
52	『土佐あちこち』 減災の努力 (香長・野村圭)	2009.9.7
53	手作り防災地図 役立てて 香美市の大栃中生 合宿先住民に配布	2009.9.4

54	『土佐あちこち』 届いた思い (香長・野村圭)	2009.7.12
55	防災や歴史、地域実情知る 香美市大栃中 2泊3日で住民と交流	2009.7.10
56	2 <small>花</small> の長いフトイ 香美市物部町 収穫ピーク 生け花用に関西方面へ	2009.6.9
57	来年統廃合 大栃高生 最後の茶摘み 息合わせ作業、成長実感	2009.5.21
58	香美市 バス4路線試験運行 空白地の住民要望受け	2009.4.2
59	巨大南海地震特徴解明へ 高知大の岡村教授ら 石土池(南国市)を掘削 3度目 3000—8000年前の堆積層採取	2008.9.2
60	■水曜えこのみー 『この一品』 英ちゃんの手打うどん(¥300) 香美市・奥物部製麺所 こしが強くもちもち	2008.6.25
61	茶摘みでさわやか交流 来年度統廃合 大栃、山田高生が体験 物部町	2008.5.15
62	■高知地震新聞 巨大津波の痕跡続々 高知大チーム 県内3カ所で発見 石土池(南国市) 住吉池(高知市) 蟹ヶ池(土佐市) 周期性解く鍵に	2008.1.7
63	『議会』 香美市(20、21日) 4投票所を近隣で統合	2007.6.22
64	『土佐あちこち』 "伝説"の山 (香長・松田さやか)	2007.4.18
65	純信・お馬の「峠道」散策を 記念碑が完成 香美市物部町	2007.4.17
66	熱さ踏み越え祈る息災 香美市物部町の高板山不動堂 素足で火渡り祭り	2007.4.11
67	『議会』 香美市(25日・臨時) 議長に中沢氏 副議長は山本氏	2006.9.26
68	【解説】 香美市議選 香北、物部勢が全員当選 背景に"山への危機感"	2006.9.12
69	香美市議 25人決定 投票率72.01% 最終議席は抽選	2006.9.11
70	香美市議選あす投票 下位グループ混戦か	2006.9.9
71	香美市議選32人立つ 7人落ちの激戦確定	2006.9.4
72	■高知地震新聞 「南海」古文書が警告 大分 宝永、安政の被害 寺の石段上まで津波/引き潮に女性流された	2006.6.23
73	■高知地震新聞 巨大南海地震に周期性確認 池の底から津波の痕跡 高知大・岡村教授チーム 須崎、南国、春野、徳島…最後は大分 13年間の挑戦実る	2006.5.12
74	『小社会』	2006.5.11
75	巨大南海地震に周期性 平均500年 高知大岡村教授ら 大分の津波跡調査 3500年間の堆積物分析	2006.5.10
76	『議会』 香美市(6日・臨時) 議長に西村氏、副は山本氏	2006.3.7
77	大豊、物部で体験ツアー 関西、近畿から65人 ユズ収穫や名所巡る	2005.11.10
78	『横顔』 物部村議会議長に就任 山本芳男氏(55) 合併町村の融和を	2005.7.22

79	『議会』物部村（19日・組織）議長に山本氏 副議長は竹平氏	2005.5.20
80	物部村議8人決まる 現職2人落選 投票率77.30%	2005.5.9
81	物部村議選あす投票 各陣営 票の上積みに懸命	2005.5.7
82	物部村議選10人立つ 2人落ちの激戦スタート	2005.5.4
83	物部ダブル選あす告示 村長 無投票再選の公算／村議 2人落ちの争いか	2005.5.2
84	■東部特集 『ニュース五十三次』 楽しいぞ物部村 塩の道、そば打ち、山菜、ミニ八十八カ所… 体験ツアー試行中 村の魅力を再発見	2004.12.2
85	ユズ狩りや温泉 ミニ88カ所巡り 来月2、3日 物部村	2004.11.23
86	■ファインダー 2004こうち 森林環境税・地域通貨事業 ボランティア活動を支援 間伐実績に応じ支給 「使いづらい」の声も	2004.11.15
87	『議会』物部村（26日・臨時）土地開発公社解散議案を可決	2004.8.27
88	■東部特集 『わが町の100年 20世紀ワンショット』 種繭の出荷 （物部村） 1975年 農家の貴重な副収入	2004.8.26
89	『議会』物部村（10日）普通建設事業55%減	2004.3.11
90	名作を読む 『河童』（2）何か気味の悪い顔が一つ、腕時計の上へ影を落した 芥川龍之介	2004.12.12
91	山伏ら荒苦行 素足で火渡り 錫杖振り、呪文唱える 物部村神池	2003.10.11
92	『議会』物部村（19日・臨時）議長に小松青氏 副議長に山本氏	2003.5.20
93	香南清掃組合焼却灰 一時保管施設を起工 当面は県外搬出継続 香北町	2002.1.12
94	『議会』物部村（19日）補正予算など可決	2001.12.20
95	香南清掃組合 灰溶融炉併設で説明会 「信用できない」と住民反発 組合長「今後も時間かけ説明」	2001.10.19
96	香南清掃組合 灰溶融炉併設へ 灰量減で施設延命期待 住民の不安解消も	2001.9.7
97	『議会』物部村（19日）木材加工施設はリスク大	2001.6.20
98	『議会』物部村（13日）12年度決算は黒字8676万円	2001.6.14
99	『議会』物部村（22日・組織）議長に小松青氏 副議長は山本氏	2001.5.23
100	新緑の茶葉 摘んだよ 大栃小中高117人	2001.5.17
101	【解説】物部村議選 世代交代くっきり 変革求める村民意識反映	2001.5.15
102	5新人が全員当選 物部村議12人決まる 共産 実質2議席	2001.5.14
103	物部村議選あす投票 若手台頭 現職苦戦か	2001.5.12
104	物部ダブル選挙 村議選は15人出馬 3人落ちの激戦突入	2001.5.9
105	物部村の仮置き焼却灰 来月にも県外搬出へ 香南清掃組合	2001.3.30

106	高知市 震度5弱 広島6弱、安芸灘震源 M6.4 2人死亡 138人負傷	2001.3.25
107	香北町の焼却灰仮置き場 住民参加の協議委設置 香南清掃組合が説明会	2001.3.19
108	『議会』香北町(14日) 焼却灰仮置き場計画 町長「安全性高い」	2001.3.15
109	物部村2地区で電話回線が不通 土砂崩れケーブル切断	2001.3.11
110	『議会』物部村(8日・開会) 当初予算8.5%増 神池の焼却灰は県外へ	2001.3.9
111	香南清掃組合 焼却灰保管「害なし」 香北町で説明会 住民に懸念の声も	2001.2.9
112	香南清掃組合 香北町に焼却灰仮置き場 5年間の使用期間 きょう地元説明会	2001.2.7
113	鳥取西部で震度6強 本県震度4	2000.10.6
114	香南清掃組合 最終処分場計画 整備構想発注に住民反発 組合側同意なしには進めない	2000.10.1
115	大柝の小中高生 仲良く茶摘み 物部村 125人が地域産業体験	2000.5.25
116	土佐山田町新改地区 南国市への最終処分場建設 環境悪化危ぐで反発 反対署名や基準強化要望	2000.5.24
117	豊かな海目指し全水商連が植樹 物部村に300本	2000.4.17
118	『議会』物部村(16日) 大柝保育所は13年度改築へ	2000.3.17
119	安芸市で震度2	2000.2.12
120	『ふれあいスポーツ』相撲 第42回物部村火鎮祭奉納大会(21日・大柝八王子宫相撲場)	1999.11.26
121	安芸市で震度2	1999.10.30
122	『議会』土佐山田町(14日) 食材選定は民間委託せず 給食センター問題	1999.9.15
123	『横顔』物部村議会議長に就任した 岡本喜身氏(64) 山林は村の財産	1999.5.29
124	笑顔で茶摘み体験 大柝小・中・高が連携実習 物部村	1999.5.21
125	『議会』物部村(17日・臨時) 議長に岡本氏 副議長萩野氏	1999.5.18
126	『あけぼの』特集 ひとり旅 門明美佐子(72) 香美郡物部村神池	1999.2.23
127	『ごみと生きる 待ったなし県内廃棄物事情』(5) 第1部 実態(5) 南国市・香美郡 「暫定」の場所に「仮置き」	1999.2.22
128	■シニアらいふ 『熟年ポスト』 二十歳の声 門明美佐子(72) 香美郡物部村神池	1999.1.27
129	今年もユズ狩り応援隊 野市町有志 物部村へ 収穫通じ交流	1998.11.14
130	『議会』物部村(16日) 残土処理場で公共用地創設	1998.9.17
131	『議会』南国市(16日) 保育民営化で説明会再開	1998.6.17

132	茶摘みで笑顔いっぱい 大栃中・高連携で実習 物部村	1998.5.21
133	物部村で震度2	1998.4.18
134	『議会』南国市(13日) 図書館構想 利用者の観点から検討	1998.3.14
135	『議会』物部村(11日) 4歳未満の医療無料	1998.3.12
136	一般廃棄物の市町村処分場 538カ所で基準違反・不適切 本県は18施設 厚生省調査	1998.3.7
137	防火の願い込め火鎮祭相撲大会 物部村	1997.11.24
138	おめでとう 金婚ご夫婦1773組(1) 室戸会場、安芸会場、南国会場	1997.8.26
139	大栃中・高生 一緒に茶摘み 連携教育で初事業 物部村	1997.5.21
140	物部村議14人無投票当選 28年ぶり女性議員も	1997.4.23
141	『やいろ鳥』大栃まんじゅう復活へ	1997.1.18
142	ふれあいスポーツ 相撲 ◆第39回 火鎮祭奉納大会(24日・大栃八王子宮境内相撲場)	1996.11.29
143	はつらつ人生<70>山本進(80) 多彩な活動に精出す 目的意識持ち生きる 文化を後世に引き継ぐ(物部村・神池 農林家 花づくり 家庭園芸 植物 趣味 伝承遊び)	1996.9.11
144	「シニアらいふ」はつらつ人生(70) 多彩な活動に精出す 山本進さん(80) 目的意識持ち生きる	1996.9.11
145	安徳天皇しのお祭りに100人集う 伝説伝わる物部村	1996.8.27
146	あけぼの 森三郎医師へ 投書・投稿 山本祐子(39) 主婦、愛知県豊田市丸山町7-11-1	1996.7.23
147	熟年ポスト 母が残した日記 門明美佐子67 物部村 主婦(神池)(母親 天寿 日記帳 思い出 故人)	1996.2.14
148	「シニアらいふ」「熟年ポスト」 母が残した日記 門明美佐子(67) 主婦、香美郡物部村神池 投書・投稿	1996.2.14
149	香南清掃組合 物部村に焼却灰処分場 きょうから暫定稼働	1995.6.1
150	土佐天文散歩 岡村啓一郎(芸西天文学習館) クレーター巡り<下> 三嶺の池と神池の「め池」(洪積世後期には各地に大型の地滑り、崩壊が続発。その跡の窪地が池に…)	1995.3.30
151	第37回金婚式 南国会場 ◇香我美町 ◇赤岡町 ◇吉川村 ◇野市町 ◇物部村 ◇香北町 ◇土佐山田町	1994.8.24
152	物部村で火鎮祭奉納相撲大会開く	1993.12.9
153	「シニアらいふ」「熟年ポスト」 60代半ば今が青春 門明美佐子(65) 主婦(香美郡物部村神池) 投書 投稿	1993.10.27
154	大栃高の全校生徒が茶摘み 物部村	1993.5.27
155	物部村議選(25日) 当 248 山本芳男 43 無新1(ヤマモト・ヨシオ=会社員。大栃高。神池)	1993.4.26
156	物部村議選(25日) 当 225 岡本喜身 58 無現3(オカモト・ヨシミ=農業。高知農高。神池)	1993.4.26

157	物部村議14人決まる 投票率85.98% 現職は全員が当選 物部村議当選者	1993.4.26
158	物部村議選 あす投・開票 異例、自粛の選挙戦 投票率ダウンを心配	1993.4.24
159	物部村議選スタート 14議席に予想の16人 物部村議選立候補者	1993.4.21
160	火鎮祭相撲にぎわう 物部村の八王子宮	1992.12.2
161	あけぼの 母の自分史 森本幸美 44 物部村 主婦 (神池) (母は京都の奉公先のお嬢さんを連れて厳寒の中、散髪に。その晩、お嬢さんは肺炎で亡くなる)	1992.6.3
162	物部村議会副議長(13日・選出) 岡本喜身 56 2期目(オカモト・ヨシミ=高知農高。農業。神池)	1991.5.15
163	<秋の叙勲> 勲五等瑞宝章 森本忠一 74 物部村 神池 2186元・物部村収入役 地方自治功労	1990.11.3
164	大栃高でも新茶摘み 全校生徒が勤労学習 (物部村 県立大栃高=安岡正隆・校長 勤労体験学習 神池 農林科 時代の実習田 高校生 お茶 新茶収穫)	1984.5.23
165	平家伝説の山に 釣り鐘 響く 物部村神池 地元民らお堂再建	1982.10.13
166	物部村長に門脇氏	1975.5.24
167	学習会を全国に放映 物部村の高齢者学級	1972.9.4
168	物部村観光に高板山 ハイキングコース 動植物の化石も豊富 神池地区民が開放	1971.10.14
169	『各地の議会』安田町(一般会計当初予算 閉会)／物部村 神池小を大栃小へ統合(一般会計当初予算 一般会計補正予算 開会 泉保育所 大栃保育所)／土佐山田町 消防庁舎建設へ(開会 一般会計補正予算 一般会計当初予算)	1971.3.16
170	過疎に悩む物部村 神池小も大栃へ統合 過去10年 9校目の廃校	1971.3.3



## 地 | 区 | の | 掲 | 載 | 記 | 事 | 内 | 容 |

掲 載 日	2013.12.4 朝刊
見 出 し	竹キャンドルを共同制作 工科大生と神池地区住民 23日のイベント向け 香美市

【香長】高知工科大学（香美市）の学生と同市物部町神池地区の住民らがこのほど、23日に同市土佐山田町の龍河洞で行われる「クリスマスキャンドルナイト」に展示する竹キャンドル作りに挑戦した。

同大学生が1年を通じて地域住民と交流する「ココイコ！プロジェクト」の一環。龍河洞保存会などでつくる「一ナイト」実行委員会が、ろうそくの明かりで洞内を彩る「洞内アートギャラリー」への参加を学生に呼び掛け、住民との共同展示が決まった。

作業には学生と住民ら、計約20人が参加。近くの山で切り出した竹をカットし、側面に穴を開けるなどして、思い思いの竹キャンドル約20個を完成させた。2年生の遠藤竣さん（19）は「地域の人と協力し合ったキャンドルを、多くの人に見てほしい」と笑顔で話していた。（山本仁）

掲 載 日	2013.7.15 朝刊
見 出 し	大栃中生招きジャガイモ収穫 香美市神池地区

【香長】香美市物部町神池の住民らがこのほど、地元の大栃中学校の生徒30人を招き、ジャガイモの収穫などで交流を深めた。

持ち主の高齢化で耕作できなくなっていた約50平方メートルの畑を、同地区の婦人部が「草だらけになるのはさみしい」と今年から管理。生徒を招くためにジャガイモを育てていた。

生徒はくわで掘り返した後、泥を払って収穫し、「大きい！」「(形が) ハートみたいや」と歓声を上げた。作業後は婦人部の手料理を頬張った。

3年生の岡本飛生（とい）君（14）は「地区の人が育ててくれたので大事に掘りました」。ジャガイモは学校のイベントなどで使う予定。（山本仁）



掲 載 日	2013.6.26 朝刊
見 出 し	「山間部に震災対策を」 対話と実行行脚 香美市民ら知事に訴え

【香長】尾崎正直知事が県内全市町村に足を運び、地元住民らと直接意見を交わす「対話と実行行脚」が25日、香美市で行われた。本年度4回目で、ユズの生産現場などを視察。同市物部町での住民との意見交換会では「山間部の震災対策もお願いしたい」との声が上がった。

地域の実情を把握し、その声を県政に反映させる狙い。12年度は12市町村を訪れ、本年度は13市町村を予定している。

尾崎知事は、住民をモデルにしたかかし作りや、高知工科大生などと連携して地域活動に取り組む同市物部町神池を訪問し、住民と意見交換。

「生活道の橋が老朽化している」「震災後、菓の供給はどうなるのか不安」など、震災対策を求める住民に「山間部が孤立しないよう、ヘリポートの整備に取り組んでいる」などと答えた。

このほか、障害者の福祉施設や地元特産のユズの出荷場、同市と香南市を結ぶ古道「塩の道」など計7カ所を視察した。(山本仁)

掲 載 日	2013.5.19 朝刊
見 出 し	工科大生1年通し交流 茶づくりなど手伝う 香美市物部町

【香長】高知工科大学(香美市土佐山田町)の学生が一年を通じて地域住民と交流する「ココイコ!プロジェクト」が18日、同市物部町神池で始まった。学生はお茶づくりなどを手伝い、住民と触れ合った。

地域活性化や学生のコミュニケーション力養成などを目的に同大や香美市などが企画。学生約40人が1年間にわたり、受け入れに応じた神池地区に通って交流する。

この日は学生11人と住民20人ほどが初顔合わせ。学生は、茶摘みや釜いり、4月に住民が揚げたこいのぼりの片付けなどを手伝い、作業後は地元女性らの手料理を堪能した。

地区長の野中幸雄さん(63)は「若い人が来てくれるのはいいこと。お祭りなどにも参加してほしい」と期待。同大1年生の藤岡美咲さん(18)は「来るだけで勉強になる。今後、草刈りでも何でもお手伝いしたい」と意気込んでいた。(山本仁)



掲 載 日	2012.11.22 朝刊
見 出 し	木造仮設住宅キット完成 高知工生製作 香美市の自主防に寄贈

【香長】高知工業高校（高知市棧橋通2丁目）の建築科3年生が、南海地震に備えて製作に取り組んでいた木造仮設住宅キットがこのほど完成。約40平方メートルの平屋になるキットで、同校は資材の一部を提供した香美市物部町神池の自主防災組織に寄贈を決め21日、目録代わりの木板を贈った。2013年度に新3年生が現地で組み立てるといふ。

東日本大震災を教訓に、地域に豊富な木材を生かして温かみのある仮設住宅を造ろうと、建築科3年生10人が課題研究で今年春から製作してきた。

同校によると、キットはヒノキや杉の柱、板など計約35立方メートルの木材で構成。神池地区の「神池防災会」など県内21の業者や団体が資材を提供するなどして協力した。

「墨付けが緊張した」「完成した住宅を想像しながら作るのが難しかった」と生徒が振り返る労作の第1号は10月末に完成。集会所がない同地区に寄贈を決めた。

数日で組み立てが可能といい、同校は来年4月以降に住民が確保した地区内の場所に建築。平時は集会所などとして活用してもらい、同校も今後の受注を目指してモデルルーム的に利用したい考えだ。

神池防災会の岡本純忠会長は「平均年齢が73歳の地区では、被災後に仮設住宅を作るのは難しく、ありがたい。保存食を蓄えたり、気軽に立ち寄れる施設として活用したい」としている。

生徒の一人、木下実佳さん（17）は「軽量化など課題はあるが、過ごしやすい仮設住宅と思う。役に立てばうれしいし、後輩たちに広めていってもらいたい」と期待していた。（飯野浩和）

掲 載 日	2012.11.4 朝刊
見 出 し	楠目小児童33人 山の暮らし学ぶ 香美市

【香長】山間部の暮らしを学ぼうと、香美市土佐山田町の楠目小学校の5年生33人が2日、同市物部町の神池地区を訪れ、かかし作りや球根植え作業などで住民と触れ合った。

児童は、今年の「山田のかかしコンテスト」で優勝した地元住民の指導を受け、ランドセルを背負った子どものかかし2体を作った。

また、住民からユズ栽培について教わり、児童は劇などを披露。地元の大栃中学校1、2年生24人も加わり、同中が住民と整備している花壇にチューリップの球根を植えた。

同小の安井千晴さん（10）は「神池の人たちが優しくて、楽しかった。花が咲いたらまた来たい」と笑顔だった。（飯野浩和）

掲 載 日	2012.7.4 朝刊
見 出 し	神池のかかし 県庁へ 香美市物部町 住民が制作 浴衣姿で節電PR

【香長】 うちわ片手にスイカをぱくっ。今夏の節電を促そうと、2日から県庁で始まったパネル展「緊急！夏の節電対策展」に、浴衣姿の親子かかしが登場。涼しさを演出しながら、協力を呼び掛けている。県主催で13日まで。

かかしは、同展の展示を担当する「環境活動支援センターえこらぼ」が、マスコット役にと香美市物部町神池の住民に制作を依頼。住民らに似せたかかし作りで、地域を盛り上げる同地区の60～86歳までの7人が腕を振るった。

会場では、冷蔵庫カーテンや余分な照明の取り外しといった、節電術などの紹介とともにかかしを展示。竹のベンチに座り、夕涼みで天然の涼を楽しむ姿が、来場者の目を引いている。

制作した岡本記征（のりゆき）さん（72）は「とにかく多くの人が立ち止まってくれたら最高。家で電気をつけるより、涼しい神池にもぜひ足を運んで」と、アピールしていた。（飯野浩和）

掲 載 日	2012.6.5 朝刊
見 出 し	香美市物部町 大栃中生 地域の助っ人に 住民の神社清掃協力

【香長】 疲弊する地域の活力になっていこうと、香美市物部町の大栃中学校が3年前から、地域住民との交流活動に力を入れている。これまでに一部の地区で防災地図作りなどを手掛けたが、2012年度は交流地区の拡大を計画。5月には3地区で生徒が地域の困りごとを調査し、住民と一緒に神社などの清掃に汗を流した。（飯野浩和）

同校は09年度から、福祉教育などの一環で物部地域での交流活動を本格化。神池地区で住民から危険箇所を聞き取り、防災地図を作成するなどしてきた。

12年度は4年目となることから、交流地区の拡大と、生徒の主体的な活動を目指している。第1弾として、5月に全校生徒31人が、班に分かれて根木屋、岡ノ内、小浜の3地区に入り、住民から過疎高齢化の影響などを聞き取った。

その結果、3地区とも、人手不足で地区の神社や側溝などの清掃に手が回らなくなっていることが判明。同月25日、生徒の発案で3地区で清掃作業に取り組んだ。

小浜地区では、氏神の十二所神社を訪れ、地区長の小松源一さん（51）の指導で落ち葉に埋もれた境内を清掃。3年生の高橋若菜さん（14）は「地区で一番若い人が50代と聞いて驚いた。自分らができることを考えて、元気づけていきたい」と意欲を見せていた。

小松さんは「子どもが境内に来たのは本当に久しぶり。清掃は地区総出でも十分に進まず、助かる。にぎやかにもなるので、今後も活動を続けてほしい」と期待を寄せていた。

掲 載 日	2012.4.28 朝刊
見 出 し	『土佐あちこち』 神池のコイ (香長・飯野浩和)

約60人の地区人口よりはるかに多い150匹。香美市物部町の神池地区で、風に舞うこいのぼりの群れを、71歳の地元女性が幸せそうに見上げていた。

夢だった。集落のみんなが結束し、ここまでこいのぼりが集まったことが「何よりうれしい」と目を細める。

3年前、住民をモデルにしたかかし作りの活動を地区で始めた。過疎高齢化の進行で集落の活力が弱り、希薄化していた住民間の絆も次第に強くなったという。

「日常生活も楽しくなった」。そんな声も聞こえ始め、中学生との交流や出身者を招いたイベントも開いた。

物部地域には、高齢化率が80%を超え、人口10人未満の限界集落も少なくない。神池の活動も、山村の再生につながるかどうかは、また別問題だ。

それでも住民は「次は何をやろうねえ」と思いを巡らせる。将来に不安はあるが、少しでも明るく。「やればできる」。そんな思いが、山里の荒廃のブレーキになることを願うばかりだ。

集落に残り、何とか踏ん張ろうと、老いる体を奮い立たせる住民たち。その生き生きとした姿が風に泳ぐこいのぼりとダブる。

「神池に泳ぐコイたち」。そう呼びたい。

掲 載 日	2012.1.15 朝刊
見 出 し	『とさとピ』 28日に香美市で平家伝説のバスツアー

平家伝説を巡るバスツアーが28日、香美市の香北、物部両町で開かれる。

ツアーでは香北町の御在所山を登り、安徳天皇と平清盛の弟、教盛（門脇中納言）を祭る葦生山祇（にろうやますみ）神社を参拝。物部町神池で、地元婦人会が作る昼食を食べ、高板山不動堂などを散策する。

参加費は3500円（昼食、保険代含む）。飲み物やかっぱ、登山靴などは持参。申し込み締め切りは23日。問い合わせは同市観光協会（0887・53・1084）へ。



掲 載 日	2011.10.26 朝刊
見 出 し	■水曜ミュージアム 『土佐・民の営み』(63) 高板山不動堂の大祭(香美市物部町) 護摩の火に浮かぶ白装束 心願成就へ素足で火渡り

「ハンニャーハーラー ミターシンギョウ カンジー……。太陽が隠れてしばらくたった山の中の小さなお堂。境内でパチパチと音を立てて燃え上がる火柱が、白装束姿で般若心経を唱える「先達」の顔を赤く染める。

香美市物部町神池の高板山(こうのいたさん)不動堂で、毎年4月9日と10月9日に行われる大祭。境内に張った結界の中で、先達と呼ばれる行者たちが護摩をたき、熾火(おきび)を素足で渡って無病息災などを祈る。

平安末期、壇ノ浦の戦いを逃れた安徳天皇の落人伝説が残る高板山。祭主で先達の岡本純忠さん(62)によると、その時身につけていた金の不動明王像を、山中に安置したことが祭りの起源。

「高板は平安時代から修験道の行場で、都から行者が来よったらしい。その山で、不動さんの信仰と安徳天皇をしのぶ祭りが始まったんじゃないか」と、師匠のまとめた記録をめくりながら話す岡本さん。山の7合目辺りには安徳天皇が暮らした跡や墓所といわれる場所が、近隣にはその衣と馬のくつわが今も残っているという。

すっかり日も落ち、境内が暗闇で覆われたころ、岡本さんら11人の先達がしめ縄で張られた結界内へ。すると弓を持った先達が東西南北や鬼門に向かい「アバッ」と一声。

中空へ矢を放ち、結界を清めると、1人の先達が国家安穩から交通安全までもろもろの祈願のため、願文(がんもん)を読み上げて火入れが始まる。

たいまつから「柴灯護摩(さいとうごま)」に火が移されると「ぼおー、ぶおおー」。ほら貝の音が闇に溶け込むと同時に、太鼓や錫杖(しゃくじょう)の音と読経が鳴り響く。

地をはうように境内に広がった煙が白い柱のように空へ。うなりを上げるように立ち上る火柱に、先達の読経も勢いを増す。

荘厳な空気が満ちる境内。参拝者の中には一心に手を合わせる人、じっと炎に見入る人。やがて、それぞれの願いや名前などが書かれた護摩木が「えいっ」という気合と共に先達によって火柱に投げ入れられていった。

約1時間後、外界の汚れから火を守るため、4人の先達が護摩を囲むと、いよいよ火渡り。まだ、赤々と輝く熾火へ岡本さんから足を踏み出す。先達たちが渡り終えると、参拝者の番。

7歳の女の子を含む約50人が次々と火を渡る。「熱っ」「全然大丈夫」。反応はさまざまだが、中には「人が歩いた後はぬくいだけ」という猛者も。ほんの3歩ほど。赤く光る熾火を踏めば、ざくざくという感触と共に、ぴりっと痛みが何だか体が軽くなったようにも感じる。

初めて訪れたという南国市の女性(32)は「心が静まって前向きになる感じがした。それに、地元の方が時間が流れても変わらずに大切にしているのを見て、気持ちが洗われた」とすがすがしい笑顔を見せた。

遠い昔から守られ、地元住民の心のよりどころである祭り。岡本さんは「人助けや幸せを祈る伝統の祭り。欠かせない信仰の対象として伝えていくのが先達の務めやね」と力強くも優しく笑う。春に秋に、この先もずっと、静かな山の中に、神々しい火柱が立ち続けることを願う。(写真・反田浩昭 文・飯野浩和)

掲 載 日	2011.10.17 朝刊
見 出 し	大柝中生と避難訓練 香美市物部町

【香長】香美市物部町の大柝中学校がこのほど、同市物部町神池で防災学習を行い、生徒が住民と一緒に避難訓練や炊き出しなどを行った。同校は、2年前に神池地区の住民に地震対策を聞き取り、避難経路や崩壊危険区域を示した防災マップを作るなど、同地区と交流を続けている。

全校生徒41人と住民約30人が参加。自動体外式除細動器（AED）の使い方などを学んだ後、住民の指導でかまどを使って炊飯し、おにぎりをつくった。

車椅子を使った避難訓練も行い、市消防団神池分団屯所から約300メートル離れたヘリポートまで、住民を乗せ車椅子を押しながら避難した＝写真。

3年生の鎌土翼君は「車椅子は坂道で重かったし、ブレーキの使い方も難しかった。万一の時は、この経験を生かしてお年寄りと一緒に逃げたい」と気を引き締めていた。（飯野浩和）

掲 載 日	2011.4.22 朝刊
見 出 し	〃地域の同窓会、120人笑顔 「おかえり」 かかし出迎え 香美市物部町神池

【香長】香美市物部町神池の住民が、出身者を迎える初の「ふるさと会」が21日、同地区で開かれ、約120人が交流を深めた。人口減が進む中、かかし作りで活気づく神池。出身者たちも「古里はやっぱりえい」「幸せやった」。いつもは静かな山里の小さな集落に、笑顔と歓声が広がった。（飯野浩和）

地区住民でつくる「神池なかよし会」の主催。現在、人口約50人の集落にもっと人を呼ぼうと、住民に親しまれている大日寺の大祭に合わせ、〃地域の同窓会、を企画した。

住民は3カ月ほど前から準備を進めてきた。婦人部はお土産用のせっけんや入れ物の新聞バッグなどを手作り。男性陣も案内状を出したり、会場を設営した。

大日寺境内の会場前にはスーツ姿などのかかしがずらり。「おかえりなさい」と書いた横断幕で、古里に戻ってきた人たちを出迎えた。参加者は五目ずしや山菜たっぷりのそば汁など「古里の味」に舌鼓を打ちながら、懐かしい顔とゆっくり談笑した。

「? 男池女池は花吹雪～」と中学時代に習った「神池音頭」で場を盛り上げた小松夫美子さん（68）＝同市香北町永野＝は「神池で歌うのは卒業後初めてかな。みんなに聞いてもらえて良かった」とにっこり。

大阪から兄弟3人で訪れた森本悦雄さん（72）は「境内にあった大きなツバキに巻き付いたカズラの実が、そりゃおいしかった。みんな木に登って食べよったよ」と、思い出話に花を咲かせた。

実行委員長の岡本喜身さん（76）は「地元と出身者同士に輪が広がり、本当にやって良かった。今後も今日を大事に元気な集落を作っていきたい」と話していた。

掲 載 日	2010.10.29 朝刊
見 出 し	香長総局新聞 ひそかに人口増加中 香美市の奥深い山で

毎日毎日、仕事も家事も忙しい。もう一人、自分がいたらなあ。誰もがちらりと抱く願い。そんな夢のような世界が、山あいの小さな集落で広がっている。地区外の人、ちょっぴり怖いかもしれない。でも、住民はみーんな「おりゃあ、だまけたぞ（だまされた）」と笑顔。集落全体が活気づいている。（香長総局・野村圭）

香美市物部町神池（かみいけ）。人口70人。4割は75歳以上。

くねくね道を上ると、底なしの女池（めいけ）にたどり着く。人や牛を襲う雌の大蛇がすみ、その前にある大日寺の大杉は、災いが起こる時に灯明が見えるなど、人々がたたりを恐れた伝説が残る。

地元の岡本記征（のりまさ）さん（71）は1年前の秋の日、ぼんやり考えていた。

「年寄りばかり。みんなあ家にこもっちゃう。朝から人間を一人も見えないという話も聞いた…。こりゃいかん」

その日、岡本さんは車庫にこもった。カシの枝を手に、わらを巻き、ビニールテープでくる。いつも農作業で着る格子柄のシャツを着せ、ズボンをはかせた。

日が暮れてから、こっそりサツマイモ畑に運んだ。かまを手に持たせ、腰をかがめさせた。

翌朝。「のりくん、おはよう。やりゆうかよ」と、サツマイモ畑を通り過ぎながら、近所の人たちがあいさつしていた。

夕方、農作業から戻る人たちが「まだやりゆうかよ」と声を掛けていった。

うわさになった。「のりくんが一晩中働きゆう」「雨が降ってもやりよった」

岡本さんは妻にお願いした。

「すまん。おまんの、着物くれ」

しばらくして、近所の孝子さん（62）は、自分ちの花壇で座り込んで草むしりをする、もう一人の孝子さんを見た。「たかちゃん、精が出るねえ。だれたろう」と誰かに声を掛けられていた。

みねちゃんも、小豆の収穫に精を出す自分を見た。酒豪のよしこさんは畑に行くと、缶ビールをぐびぐびやっている自分がいた。足元に缶が5、6個転がっていた。一緒に一杯飲みたくなった。もう一人の自分たちはみんな、岡本さんの奥さんや親せきの服を着ていた。

ゆき兄（にい）も2人に増えた。麦わら帽をかぶり、腰のベルトにかまを差し、サツマイモ畑で並んで草むしりをしている。

「どれが本当の人間か分からん」と誰かが言った。ややこしいことになってきた。

ある時、ゆき兄の畑のそばで車が止まり、窓から見知らぬ男性が声を掛けた。ゆき兄が返事をしないので男性は車を降り、自分の帽子を取って頭を下げた。返事はない。男性は近寄って、ゆき兄の顔をのぞき込んだ後、急に恥ずかしそうなそぶり、そそくさと去っていった。

その一部始終を見届け、岡本さんたちに教えてくれたのは、近くのダイコン畑にいたヨシくんだった。

ヨシくんには、まだもう一人の自分がない。「もう少し増やした方がいいんじゃないかな…。」地区の寄り合いでヨシくんはつぶやいてみる。

今年9月、夜更けのユズの貯蔵庫。

岡本さんの横で、最年長85歳のとらやんをはじめ、しげやん、たがやん、まちこさん…何人もがわらを詰め、洋服を着せていた。

会話は途切れない。

「こないだ徳島の三好市へ行ったけど、あんまり見んずつ帰ってきた」「あたしらあの方がえいでー」

暑くて汗ばむので、外で涼むことにした。メントや道端に座り込んで空を見上げた。

「あれ、UFOやない?」。誰かが言う。

満天の星の中にひときわ強い輝き。「宵の明星やろう」と、ヨシくん。きみちゃんが「人工衛星や」ときっぱり言った。

昨年のお月見会もきれいな満月が上がったが、お酒を飲んで、みんなあまり覚えていない。

この夜は、星が降ってくる。いつもは一人で見上げる空を、みんなで眺め続ける。

10月、秋が近づいてくる。神池なかよし会の15人は、シカを2頭こしらえた。シュロの葉で毛並みを整え、お茶の実のフンをこんもり盛った。そのそばで畑にネットを張る住民を5人こしらえた。

「山里のナヤミ」と名づけ、「山田のかかしコンテスト」に出した。

1等になり、30万円もらった。

そのお金で27日、地区のみんなで愛媛へ旅行した。

集落はからっぽになったが、女池のそばには仲良しの夫妻が座り、のりくんの孫のしゅんくんが自転車に乗ってみんなを見送った。ゆき兄はやっぱり畑仕事をしていた。

チャーターしたバスには、もう一人のゆき兄がスーツを着て乗っていた。



掲 載 日	2010.6.18 朝刊
見 出 し	土佐復燃 香美市新聞 『古里自慢』 女池（物部町神池） 大蛇伝説から憩いの場へ

多くの伝説が残る香美市物部町神池。大栃から車で20分ほどのくねくね道を上ると、目の前がぱっと開けて大きな池が現れる。

雌の大蛇がすんでいたという「女池（めいけ）」。近くには雄の大蛇がすんだ「男池（おいけ）」がある。

両池ともに、大蛇が鳥や牛、人を襲って食べるので、村の人たちがおびえていた。勇気あるかじ屋の若者が、大蛇を追いつと口に刃物をくわえて3日間泳ぎ回ったが、大蛇は出てこなかった。そこで、大金づちを真っ赤になるまで焼いて池に投げ込むと、大蛇は悲鳴を上げて逃げたといわれている。

女池は底なしで、周囲に巨木が生えていたが、長宗我部元親が池へ切り込んでしまったとされる。その後は埋め立てられ、水田として住民が利用し、現在は生け花用の植物「フトイ」の出荷がピークを迎えている。

フトイの収穫が終わった7月ごろ、女池は満開の古代ハスで埋め尽くされ、市外から訪れる人も多い。そこで、地元住民らが池の周りに遊歩道を設け、アジサイを100株あまり植樹。大蛇伝説の池が、憩いの場へと変わってきている。アジサイは少しずつ色づいており、「7月初旬ごろまでは楽しめそう」と地元住民。

女池の近くにある大日寺には、県の天然記念物に指定された大杉があり、樹齢は約800年。周囲の太さは、中学生約15人が手をつないでやっと届くほど。この地方に凶変があると、こすえに灯明（とうみょう）の明かりが見えるといわれる。

掲 載 日	2010.6.4 朝刊
見 出 し	山間地にヘリポート 香美市物部町神池 「心強い支えできた」

【香長】いざという時も安心——。香美市物部町神池に同市で初めてとなる常設のヘリポートが完成し2日、落成式が行われ、心待ちにしていた住民らが喜んだ。

同市は険しい山間地が多く、過疎高齢化も進んでおり、消防・防災体制の強化が課題になっている。2008年度からヘリポートの整備場所を選び、周囲に障害物がないなどの条件を唯一クリアした同地区に決めた。

今年1月、旧神池小学校の跡地に着工。残っていた校舎の一部を取り壊し、敷地面積約588平方メートルのヘリポートを、約1千万円で整備した。式には、地元住民や市消防など関係機関の約30人が出席。神事後、門脇楨夫市長らがテープカットで完成を祝った。

同地区は約60人が生活している。1946年の昭和南海地震や、繁藤災害が起きた72年の集中豪雨の際、山が崩落し孤立した経験があるという。岡本喜身区長（75）は「住民のうち70歳以上が50%を超え、何かあった時に心配だった。地震時に孤立する恐れもあるが、心強い支えができた」と喜んでいた。

県総合防災訓練の一環で6日、陸上自衛隊のヘリコプターが離着陸する予定。（野村圭）

掲 載 日	2010.3.2 朝刊
見 出 し	ありがとう 大栃高校 最後の生徒17人巣立つ

【香長】2009年度で廃校になる大栃高校（香美市物部町）で1日、卒業式が行われた。最後の卒業生は17人。式にはOB、地域の人々ら約150人が出席。約半世紀の歴史に思いをはせ、助け合い支え合いながら学園生活を終えた17人の旅立ちをしっかりと見届けた。「ありがとう大栃高校、そしてさようなら」——。（野村圭）

同校は1960年、高知農業高の香北分校として誕生。64年に大栃高として独立し、昨年までに2401人の卒業生を送り出してきた。最後の在校生17人はこの1年間、一致団結して何事にも頑張ってきた。

農業コースを中心に、神池農場のクヌギ林などを整備。最後まで手を抜かず、卒業試験が終わっても作業を続けた。家庭コースが引き継いできたユズレシピも計40品になった。その取り組みは地域に浸透し、地元JAから感謝状を受けた。

1年生で始めたいざなぎ流舞神楽。2年生で終わる予定だったが、「最後だからこそみんなで舞いたい」と練習を重ねた。新しい舞にも挑戦。17人の気持ちが一つになった舞は、地域の人たちの心に深く残っている。

学園祭は、劇にクイズ、野菜や焼きそば販売、部活の展示など一人何役も務めた。運動会も大栃小、中学校の協力を得て、成し遂げた。「大栃高に来て良かった」。17人全員がそんな思いに浸るとともに、支えてくれた地域への感謝を胸に刻む。

卒業式では、吉村洋二校長が「最後まで大栃高の伝統をつなぎ、発展させてくれた。常に一歩前を目指した努力を続けてください」と祝辞。卒業生を代表して藤原愛さんが「最後の卒業生であることに誇りを持ち、自分の道を歩いていきます」と誓った。

同校の歴史を見届けた1期生らは「役目を終えたということやろうけど、（廃校は）寂しい」と名残を惜しんだ。ただ、「最後の卒業生が彼らで良かった」。17人の晴れの姿をしっかりとまぶたに焼き付けた。

\* 「恋しくなったら会いに来る」 記念モニュメント完成

卒業式の直前、生徒らが校門で記念モニュメントを除幕した。真っ白い布の下から現れたのは、高さ1.7mのユズをモチーフにした同校のキャラクター「T o t t y（トッティー）」。生徒たちの手作りで、3年間取り組んできたいざなぎ流舞神楽の衣装をまとったデザイン。17人の学園生活のシンボルだ。

T o t t yは、3年生の藤原愛さんが考案。家庭クラブのレシピ集に登場するなど、同校のキャラクターとして活用した。

モニュメントは昨年4月から構想を練り、物部に自分たちが勉強した高校があった証しを残そうと、ユズといざなぎ流の組み合わせにしたという。

生徒らは石こうで型を作って、セメントを流し込んだが失敗。試行錯誤の末、結局、四つのパーツに分けて制作。それをつなぎ合わせて、夏休みの合宿中に色を塗った。

生徒は「大変だったけど、17人の気持ちが一つになった。今では18人目の仲間のように」「大栃が恋しくなったら会いに来たい」と見詰めていた。

《卒業生17人の思い》

▼大岸 暁幸さん 人数は少ないけど、個性の強い人が多くて楽しかった。学園祭は一人何役も

- やって大変だった。野菜完売がうれしかった。
- ▼大黒 貴章さん 寮生活で男子は誠也君と2人で楽しくやった。食事は無理やけど洗濯はできるようになったし、一人暮らしに自信がついた。
  - ▼岡村 明典さん 農業コースで丸太を一日中運んだのが一番大変でした。農家を継ぐために進学するので、高校で学んだことを生かしたい。
  - ▼岡村 憲利さん 最後やからこそできた体験や思いがあって、大変やったけど良かった。3年間一緒のみんなは、友達以上恋人未満の関係！
  - ▼小原 直希さん 3年の夏休みの合宿が思い出。学園祭に向けていざなぎ流の舞の練習やモニュメント作りで、みんなと友情を深められた。
  - ▼公文 政仁さん 3年間はあつという間やった。数学で分からない問題を教えてくれたり、困った時に助けてくれたみんなは、大切な仲間です。
  - ▼中原 陸さん ユズレシピが完成して良かった。パン屋になってもパウンドケーキとかに生かせる。みんなで笑って卒業できてうれしい。
  - ▼松岡 誠也さん 最後だからこそ、きずなが余計強まったと思う。誰かが困っていたらみんなですぐ助けるクラスで、卒業しても大事にしたい。
  - ▼山崎 和成さん ユズレシピを最後に教えに行った元気な神池の人たちが印象的。レシピ作りを通し、将来は食にかかわる仕事を指したい。
  - ▼丸内 沙織さん 修学旅行の夜にみんなで話をしたのが一番の思い出。小中学校とは全然違う、一生の友達に出会えたのがうれしかった。
  - ▼門脇 沙耶さん 夢は保育士で、人前に出ることに慣れようと生徒会に入った。学園祭は準備が大変やったけど、成功して良かった。
  - ▼後藤 友加さん ユズレシピを通して地域の人と交流できたのが良かった。卒業したらみんなと別れるし、学校もなくなってしまうから寂しい。
  - ▼中西 望さん 学校に来るのが一番楽しくて、居心地が良かった。卒業したらたぶん県外に行くけど、同窓会は何か何でも参加したい。
  - ▼橋詰 紗和さん みんな色が濃いんで17人でも寂しくなかった。自由に絵を描くのが好きで、毎月、部誌を作った美術部が一番楽しかった。
  - ▼藤原 愛さん 少人数で不安やったけど、大栃高の最後を盛り上げられた。少ないからこそ前が出るきっかけがもらえ、自信がついた。
  - ▼吉村 和美さん 農業コースは女子1人。クヌギを運ぶのは大変やった。落ち込んだ時に励ましてくれる友達もあって、大栃高に来て良かった。
  - ▼吉村紗由美さん 自分ができんと思よかったことも、やったらできると友達が思わせてくれた。みんなの元気や頑張る姿に力をもらった。

掲 載 日	2009.12.22 朝刊
見 出 し	来春廃校 大栃高からバトン、高知農高が農場管理 「最後まで整備してきた…」 生徒の気持ち生きる

【香長】来春での廃校が決まっている大栃高校（香美市物部町）の神池農場を、高知農業高校（南国市東崎）が来年度から引き継いで管理することになった。大栃高校は「バトンを渡す相手が決まり、最後まできちんと整備したいという生徒の気持ちが生きた」と喜んでいる。（野村圭）

同校は1960年に高知農業高校香北分校として設立。64年に大栃高校として独立した。同校から車で約20分の同農場は約2・4畝。ユズ（約0・3畝）、茶（同）、シイタケの原木用のクヌギなどを育ててきた。高知農高は5年ほど前から同農場で実習用にクヌギを切り出すなど交流があった。

5月には大栃高の全校生徒が最後の茶摘み。来年度以降の利用方法は決まっていなかったが、新芽が出るよう9月に茶園を整備し、ユズの下草も刈った。今後も、農業コースの生徒がクヌギを切り出すなど整備を続ける予定だ。

同農場を引き継ぐ高知農高は、ユズの担い手を育成することになるため、JAとさかみ物部支所柚子生産部会のメンバーが21日、同校を訪問。冬至用にと、1400個のユズ玉をプレゼントした。

大栃高校の吉村洋二校長は「生徒が手を入れてきた農場を引き継いでくれるところが決まり、非常にうれしい」と笑顔。高知農業高校の沖上芳幸校長は「農業総合科だけでなくユズの皮を使った新商品の開発など、科を超えて学校全体で活用していきたい」と意欲を見せていた。

掲 載 日	2009.9.4 朝刊
見 出 し	手作り防災地図 役立てて 香美市の大栃中生 合宿先住民に配布

【香長】香美市物部町の大栃中学校の生徒がこのほど、同町神池で合宿。住民と交流を深め、同地区の防災マップや民話集をまとめ3日、住民にプレゼントした。

地域の高齢者の実情を知りたいという生徒の熱意に同地区の住民が協力。7月上旬、大栃高校の施設を拠点に、全生徒47人が2泊3日の合宿を張った。生徒らは民泊したり地域を一緒に歩いたりしながら民話や歴史、防災などについて住民の話を聞いた。

これを基に、避難路や消火栓などを色分けして書き込んだ防災マップを作製。また「神池八大伝説？」として民話集もまとめ、写真や絵を付けるなど工夫した。マップ、民話集ともA3判。

この日、3年生16人が防災マップと民話集に同校の運動会の招待状も携え、地区の全戸約35戸を訪問。マップをじっくりと見た住民は「まあ、きれいにまとめちゃあ」「見えるところに張っちゃく」などと笑顔で答えていた。

同中の小松新之介君は「どう書いたら分かりやすく伝わるか、一生懸命考えて地図を作った。もしもの時には役立ててほしい」と話していた。（野村圭）

掲 載 日	2009.7.10 朝刊
見 出 し	防災や歴史、地域実情知る 香美市大栃中 2泊3日で住民と交流

【香長】 地域のことをもっと深く知ろうと、香美市物部町の大栃中学校の生徒47人が、同町神池を訪れて住民と交流している。10日まで2泊3日で聞き取り調査などして、防災マップ作りなどに取り組む。

県社会福祉協議会の助成事業で福祉教育の授業として実施。きっかけは、同校が毎年出している運動会への案内はがき。約150通のうち、20通ほどが昨年、あて先不明で返ってきており、例年になく多かったという。

生徒らが理由を探ると、亡くなったり、介護施設への入所で地域を離れた人が少なくないことが判明。地域の高齢者の実情を知りたいという生徒らに、神池地区の住民が協力して実現した。

生徒は6班に分かれて活動。民話や歴史の班は、地域の史跡などを巡りながら住民の話を聞き取り。食事作りの班は、地域で採れる食材を中心にした料理を婦人グループと一緒に作った。

防災マップの班は、各家庭を訪れて「危険な場所がありますか」「いつもどこで寝ていますか？」などと質問。「大雨が降ると鉄砲水が出るのが怖い」などの声を丹念にメモしていた。また、石壁や家の裏山など地震の際に危険な場所も撮影した。

2年生の竹田清子さん(14)は「こんなに危険な場所があることを知らなかった。みんなと協力して地域のことをもっと知りたい」と話していた。(野村圭)



掲 載 日	2005.11.10 朝刊
見 出 し	大豊、物部で体験ツアー 関西、近畿から65人 ユズ収穫や名所巡る

農作業や自然体験を通じて、都市部住民らとの交流を進めようと、長岡郡大豊町と香美郡物部村で九日、大阪府や和歌山県などからのツアー客がユズの収穫、紅葉狩りなどを楽しんだ。

大豊町で開催されたのは、JA土佐れいほくと同町などでつくる町地域水田農業協議会が、初めて企画した「土佐の田舎めぐりツアー」。都市部の消費者にユズの生産現場を見てもらい、収穫体験を通じて販売促進につなげる狙いだ。

今回は県産品の産直ショップ「とさ千里」＝大阪府豊中市＝を通じて、同町などのファンになった大阪や奈良の消費者三十五人が訪れた。

一行は八日にバスで同町入りし、山荘梶ヶ森で宿泊。九日は同町怒田の氏原明子さん（63）の畑で、黄色く実ったユズを収穫した。

参加者は「木に実がなっているのを初めて見た」などと話しながら笑顔で作業。急斜面で尻もちをつく人もいたが、一時間ほどで約二百五十キロを収穫した。

この後、近くの集会所でJA職員らが協力して搾汁。果汁は空き瓶に入れたり、ジュースやジャムに加工してお土産に。参加者は「ユズを買うのは簡単だが、斜面での栽培など実がなるまでにこんなに苦労が多いとは知らなかった」と感慨深げだった。

物部村へは和歌山県日高川町（旧中津村）の住民ら約三十人が訪れた。

物部村は十五年度から、県の助成で体験型観光プログラム作りを進めている。今年は先進地の取り組みを学ぼうと、農林業や手工芸など五十以上の体験プランを設け、年間約二千人を受け入れている旧中津村を二度訪問している。

この日は、旧中津村の住民らでつくる都市農村交流推進協議会「ゆめ倶楽部21」のメンバーらが物部村へ。三班に分かれて、べふ峡の紅葉や「塩の道」などを楽しんだ。

上葦生地区では、地元住民たちが明治時代の石仏などを使い、観光資源として復活させた「上葦生ミニ八十八カ所」などを見学、樹齢約八百年の大杉なども巡った。

同地区にある池では、案内役の住民が「大昔に大蛇がすみ、人々に恐れられていた」などと伝説も紹介。同倶楽部のメンバーは「物部村は名所旧跡が多く、観光素材がたくさんある。地元が収入を得られる観光メニューを作り、長く取り組んでほしい」とエールを送っていた。



掲 載 日	2004.12.2 朝刊
見 出 し	■東部特集 『ニュース五十三次』 楽しいぞ物部村 塩の道、そば打ち、山菜、 ミニ八十八カ所… 体験ツアー試行中 村の魅力を再発見

香美郡物部村が、豊かな自然や文化を楽しんでもらう「体験型観光」のプログラム作りを進めている。現在、村民がガイド役となって一泊二日のモニターツアーを随時実施し、内容を検証している。「観光客を呼び、地域をにぎやかにしたい」。そんな思いで取り組む村民らの活動を紹介する。

「ほれ、そこの草が食われちよるろう。カモシカが食うた跡じゃ」

十一月初旬、紅葉の山を楽しむモニターツアーが行われた。この日はべふ峡保勝会の半田岩雄会長（68）の案内で、べふ峡を散策した。

高知市などから参加した約十人が、カメラを片手に半田会長の説明に耳を傾ける。「この滝は穴場」「この川はアメゴが半日で五、六十匹釣れる」一。素朴な語り口のガイドが続いた。

モニター男性は「自分たちだけでも自然は楽しめるが、カモシカの痕跡なんて分からない。地元の方ならではの案内がとても面白かった」と満足げに話した。

三嶺や民間信仰の「いざなぎ流」など、さまざまな“観光資源”を持つ同村。都市住民が農山村に滞在して文化や住民と触れ合う「グリーンツーリズム」を村全体に広げようと、村は昨年度から県の補助を受けて体験型観光推進事業を始めた。事業は十七年までの三年間で、「塩の道」ウォークとそば打ち▽矢筈山登山と山菜ちらし作り一など季節ごとにプログラムを作っている。

#### ▼最後のチャンス

事業の中心となって活動しているのが、住民らで組織する「奥ものべを楽しむ会」。茶屋運営など五十年の歴史を持つ別府など四地区が観光客を受け入れているが、事業導入を機に観光資源を掘り起こした地区もある。

神池、楮佐古、黒代、安丸地区。これら村北部には「上葎生ミニ八十八カ所」がある。明治元年に住民が石仏を配置したが、参拝する姿はいつしか途絶えていた。

それが三年前、知人から「八十八カ所の道順を教えて」と頼まれた神池の門明稔喜さん（79）が、子どものころ歩いた道をたどった。そして埋もれていた石仏九十四体を確認した。

門明さんは「立派な史跡を次世代に伝えよう」と住民に紹介。「もっと宣伝しよう」と盛り上がったところに、村から体験型観光事業の話が持ち込まれ、「渡りに船」と取り組みが始まった。

石仏は大日寺と福泉寺を中心に約十五キロにわたって安置されており、七一八時間かけて歩く。「健康づくりと史跡巡りをセットに」と地図や標識を製作。案内役の住民は「大蛇がすんでいた」という男池など、コースにまつわる昔話を調べている。

「活動を通じて地域に張りが出てきた」と話すのは、神池地区長の岡本記征さん（65）。高齢化が進む同村。同地区も半分以上が六十歳以上となった。「この集落に住んでもらうのは難しいが、観光客が来れば土日だけでもにぎやかになる。集落が元気でいられるかどうか最後のチャンス」と力を込める。

#### ▼ありのまま

モニターツアーは同じ内容を数回実施。参加者の意見を聞きながら改良を加えていく。検証が目的だが、ガイド役の村民の自信にもつながっている。

県外客を招いた昨年のツアー。桑ノ川地区では女性たちが、よもぎもちや煮物など郷土料理作りのメニューを用意した。

受け入れの経験はあったが、県外客は不慣れで「方言が恥ずかしい」ともじもじ。一時ぎくしゃくした空気も流れたが、「方言も魅力」という周囲の声にぐっと楽になった。山中計子さん（64）は「無理して標準語でしゃべろうとしても舌をかむだけ。格好付けず、ありのままの物部を感じてもらえたら」という。

村では来年度もツアーを行い、プログラムを完成させる。今後は宿泊できるべふ峡温泉に企画や誘致を任せる予定だ。単に「村に金を落とす」だけでなく、住民が主体となることで地域の活性化にもつながる体験型観光。「自然」を前面に打ち出し、夢が大きく膨らんでいる。（香長総局・門田朋三）

掲 載 日	2003.10.11 朝刊
見 出 し	山伏ら荒苦行 素足で火渡り 錫杖振り、呪文唱える 物部村神池

香美郡物部村神池の高板山（こうのいたさん）不動堂で9日夜、「山伏の祈り」が行われ、煩惱を焼く火渡りの儀式が厳かに執り行われた。

高板山は「皇（こう）のいた山」の名の通り、安徳天皇がいたとされる平家伝説のある山。修験道場としても知られている霊山で、毎年秋に行われる儀式は山伏たちの荒苦行の一つ。戦後から一般の人も交じり、火渡りが行われるようになった。

ヒノキを積み重ねた高さ三メートルの祭壇「柴灯護摩（さいとうごま）」に着火。白装束の山伏が錫杖（しゃくじょう）を振りながら呪文（じゅもん）を唱えた後、「家内安全」「合格祈願」の願い事が書かれた参拝客の木の板を一枚一枚、「えい！」と火の中に投げ入れた。

山伏たちが手で印を結び、火鎮めの呪文をかけると、クライマックスの火渡りの儀式の開始。赤い炭火の上を山伏が素足で踏み渡る。「えい」と気合を入れ、一般客がそれに続いた。

邪心のない者は熱さを感じないとされており、火渡りを体験した多くの人が「土の上を歩く方が石が当たって痛いねえ」と涼しい顔だった。

地元民は「この日のため、前日から肉類を食べるのを控える。厄が取り払われ、清らかな気持ちになる」と話していた。



掲 載 日	1998.11.14 朝刊
見 出 し	今年もユズ狩り応援隊 野市町有志 物部村へ 収穫通じ交流

高品質のユズの産地で知られる香美郡物部村で収穫が最盛期を迎えている。この作業を手伝おうと十二日、同郡野市町の有志ら二十人余りで編成した「ユズ狩り応援隊」が同村を訪問、農作業に協力し、交流を深めた。「のいち・ものべ村交流会議」（岩神篤彦実行委員長）の主催。

ユズ収穫は、霜が降りる前の十一月いっばいが勝負。しかし十アール平均で一万五千個の収穫量があり、高齢化、過疎化などで各農家は「猫の手も借りたいほどの忙しさ」だという。昨年の活動が農家に評判で、今年も応援隊を繰り出した。

メンバーは収穫方法の指導を受けた後、四力所のユズ農園に分散。黄色のユズでいっばいの農園の中で、傷が付かないよう丁寧にはさみを入れ、収穫に励んでいた。

村ユズ生産組合の近初男部長は「一人で作業している人もおり、応援してもらえるのはありがたい」と大歓迎の様子。岩神委員長は「物部村が農閑期の時は野市町にも来てもらってこれからも交流を進めたい」と話していた。

掲 載 日	1997.1.18 朝刊
見 出 し	『やいろ鳥』 大栃まんじゅう復活へ

「一個二十円」という信じられない安さと素朴な味で人気を集め、一昨年十一月に惜しまれながら姿を消した香美郡物部村の大栃まんじゅう。「あの味をもう一度」という周囲の声にこたえて、春から製造販売を始めるべく準備中なのは、同村神池の竹田英子さん（55）だ。

竹田さんは半世紀近い間、まんじゅうを作り続けた“先代”、森本婦美さん（83）＝同村大栃＝を、五年ほど手伝った。「英ちゃんはよう仕事した。だから、やってみたらと勧めたわね」と森本さんの信頼は厚い。

昨年秋には、自宅に木造平屋三十平方メートルほどの“工場”を建てた。左官さんがこしらえてくれた大きなかまどに流し台、冷蔵庫が並び、森本さんに譲ってもらったもろぶたやせいろが高く積み上げられている。

小麦粉や小豆、黒砂糖などの材料も買いそろえた。準備万端整ったが風邪を引いたこともあり、年明け早々に予定していた“試作品”は、実はまだ作っていない。

まんじゅうは、つぶあんとしあん、酒粕（かす）の三種類の予定。「森本のおばあさんくのがと同じ味にしたいと思いゆうけんど、ならざったらどうしよう」「つぶあんとしあんをこしらえるのはずるうない。ほんとに一人でできるろうか…」

心配の種は尽きないようだ。値段についても「二十円ではとてもとても。できるだけ安くとは思いますが」と思案している最中だ。

周囲からは「まだかね」と催促の声も多いが、三月に二女、安美さん（22）の挙式が控えており、店開きは早くも三月末ごろになりそうだという。しかしもう少し待てば、あのフカフカのおまんじゅうが食べられる——甘党にとって、楽しみが一つ増えそうな春である。

（香長支局・植村慎一郎）

掲 載 日	1996.8.27 朝刊
見 出 し	安徳天皇しのぶ祭りに100人集う 伝説伝わる物部村

安徳天皇伝説がある香美郡物部村安丸、安丸城跡の八幡神社で二十六日、祭りが催され、地元や高知市などから約百人が集まった。天皇の遺品と言われている衣なども公開された。

安徳天皇は有名な源平の壇ノ浦の合戦で敗れ、わずか七歳で平家一族とともに入水したとされている。

しかし、実際は逃げ延びた、という伝説が高岡郡越知町など西日本各地にある。

物部村に落ちてきた、との説を唱えているのは同村神池の為近幾樹さん（83）。為近さんは約四十年にわたって研究を続け、このほど同村の旧家で安徳天皇が着ていたと言われている菊の文様が入った麻の衣を見つけた。

祭りでは神事が行われた後、為近さんが衣のほか、天皇が乗っていたと言われている馬の轡（くつわ）を公開した。

集まった人らは興味深そうに眺め、ビデオやカメラに収めていた。また、「安徳天皇は徳島から物部入りした」などと説明する為近さんの話に熱心に聴き入っていた。

掲 載 日	1984.5.23 朝刊
見 出 し	大栃高でも新茶摘み 全校生徒が勤労学習（物部村 県立大栃高＝安岡正隆・校長 勤労体験学習 神池 農林科時代の実習田 高校生 お茶 新茶収穫）

【香長】香美郡物部村の県立大栃高校（安岡正隆校長、百四十五人）で二十二日、全校生徒が参加して茶摘みの勤労体験学習が行われた。

同校は現在、普通科だけだが、五十五年四月に募集停止した農林科時代の実習田が同村神池に残っている。杉、クヌギ、梅林など全体で二畝あり、農林課の廃止後も全生徒が農作業に親しもうと、特色ある学校づくりを推進。茶摘みや植林の下草刈りなど年三回の勤労体験学習を続けている。

神池の実習田は同校から北西約十二<sup>キロ</sup>の山にあり、茶園は三十<sup>アール</sup>。ことしは春先の冷え込みで芽の生長が遅れたが、ようやく一番茶の摘み取り期を迎えた。生徒たちはそれぞれに茶園に入り『一芯（しん）三葉』の基本通りに新茶摘み。一人平均三<sup>キロ</sup>、一日がかりで四百<sup>キロ</sup>余り摘んだ。

『今の子供は体を使うのを嫌うが、山の子が多く積極的にやっている』と先生たち。摘み取った新茶は、生徒らの手もみ作業などで製茶。一般にも販売するが、味はなかなかの評判だそうだ。



掲 載 日	1982.10.13 朝刊
見 出 し	平家伝説の山に 釣り鐘 響く 物部村神池 地元民らお堂再建

- …香美郡物部村の中心地大栃から北へ、上葎生川（かみにろうがわ）沿いの山中に神池（かみいけ）の集落がある。ここから急な山道を二時間も登ると、修験者の道場として知られる高板山大権現不動明王の社務所、行場（ぎょうば）がある。このすぐ近くの森の中に神池の住民と村内外の信者が協力して釣り鐘堂を再建した。
- …太平洋戦争まで九十七貫（約三百六十四<sup>キ</sup>匁）の釣り鐘があったが、軍に没収された。戦後ずっと、『鐘つき堂を再建したい』と土地の人々は願いつづけてきたが、過疎も進み、どうしても再建できないまま長い年月が経過した。
- …しかし、東は室戸市から西は梶原町、吾北村までの地元出身者や信者が協力することになって、千五百人から約七百万円の寄付が集まった。9月末には百三十貫（約四百八十八<sup>キ</sup>匁）、直径二尺六寸（約七十九<sup>センチ</sup>）の立派な鐘が完成、山頂の新しい鐘つき堂まで引き上げた。
- …こうしてこのほど秋の護摩供養でお披露め。その翌日まで二日間にわたって千五百人近い人が訪れ、釣り鐘をついて家内安全を祈った。安徳帝がこの山にいたという『皇の居た山』高板山の鐘の音だけに平家伝説を伝えるかのような諸行無常の音色を谷間に響かせていた。〈香長〉

掲 載 日	1971.10.14 朝刊
見 出 し	物部村観光に高板山 ハイキングコース 動植物の化石も豊富 神池地区民が開放

【大栃】別府峡ともみじの名所、三嶺西熊溪谷で知られる香美郡物部村で、こんどは村内神池地区民らが、高板山（一四六七・六<sup>センチ</sup>）の神域を開放、観光に一役かって出るようになった。このため村文化財調査委員会（竹田渉教育長）は、このほど高板山権現の秋祭りを視察するとともに、奥の院まで約十二<sup>キ</sup>匁を歩いて日帰りハイキングコースの可能性を調べた。

コースはまず大栃から約五<sup>キ</sup>匁北方の、神池部落（標高約七百<sup>センチ</sup>）まで自動車。そこから高板山へあんがい簡単に登山が出来る。高板山権現の通夜堂まで約四<sup>キ</sup>匁の部落道を登れば、先の峯づたい（約十二<sup>キ</sup>匁）は、たいした急坂もなく途中の一ノ森・二ノ森・三ノ森の奥の院まで、修験者が道場とする三十六童子の行場のきびしさと、四季を通じての変化に富む古木の景色や展望を、女性や子供たちでも気軽に満喫出来る。

そのうえ高板山一帯は、一億年以前の石灰紀時代の地層をそのままに、アンモナイトと言われる軟体動物の化石や、植物などが発見されているという。

一方、地元神池地区には二万匹あまりの錦ゴイが放流されている天然の底なし沼の女池があって釣り堀も計画されており、またその隣の男池の周囲には古い伝説と大きな杞柳があり、大日寺境内の巨杉の景観と合わせて歴史的、文化的にも興味深い。地元では山菜料理専門の民宿なども計画しているという。

掲 載 日	1971.3.3 朝刊
見 出 し	過疎に悩む物部村 神池小も大栃へ統合 過去10年 9校目の廃校

【香長】香美郡物部村神池にある神池小学校（山中校長、四十六人）は新年度から廃校、大栃小学校へ統合される見通しとなった。過疎現象の著しい同村ではここ十年で九校目の廃校になるわけだが、さらに二、三の統廃合も迫られており、関係者はその対策に追われっぱなしで頭を痛めている。

同村は徳島県境に接する辺地で、三十一年の人口約一万二千人が去年の国勢調査では六千七百二十二人と、地すべりのように減少している。これに伴い三十七年に千九百五十六人（二十校＝うち分校三）を数えた小中学生も現在は千六十二人（小学八校、中学五校）と、十年間に約半分になった。このため、かつてにぎやかだった学びやは次第に静かになり、複式化され、やがて他校に吸収合併、お山の学校は次々と姿を消すようになった。

最初に廃校となったのは、三十六年三月の上葦生中学神池分校で大栃中へ統合された。次いで三十八年には安丸小、四十年には河口小と拓小がそれぞれ大栃小へ統合。四十三年には桑ノ川分校が岡ノ内小へ。四十四年には中津尾分校が大栃小、中学へ。そして昨年三月には笹小がやはり大栃小へ統合した。

こんどの神池小（複式三学級）は現在一年生が二人、二年七人、三年九人、四年七人、五年九人、六年の十二人が卒業する一方、予定される新児童は二人。校下の世帯数は百三十余で、今後ますます生徒数が減り、教育条件も悪化することは必至で、村教委は統廃合については関係住民と話し合いを続けてきた。父母たちのほとんどは大栃小への統合をやむを得ないとしており、スクールバスの運行、村道の改良などについて早急に煮詰めたうえ、三月定例村議会に統廃合の議案を提出する段取りという。このほか明改小など二、三の小中学校の統廃合も村教委で検討されている。

なお小さな学校を吸収した大栃小は児童数三百六十三人、大栃中は二百四十四人で、両校に併設されている寄宿舎には二十七人の小中学生がはいっている。

